

## 2012(平成24)年度NBRPショウジョウバエ運営委員会 議事要旨

日時：2012(平成24)年5月21日(月)15:00～17:30

会場：情報・システム研究機構 東京連絡所

出席者：小嶋(委員長)、井垣、嘉糠、上川内、木村、佐藤、鈴木、多羽田、丹羽、山崎  
上田、伊藤、和多田、松田、の各委員

欠席者：明石、倉永、後藤、松尾の各委員

ワザンバー：文部科学省ライフサイエンス課 土屋ゲノム研究企画調整官

同 生命科学研究係 齋藤係員

森脇 NBRP 推進委員、佐藤 NBRP 事務局長

近藤、矢野、山本、鈴木知財室長(遺伝研)、

高野、都丸(工繊大)、

事務局：研究推進課長、同副課長、研究推進チーム係長、事務職員

NBRP 事務局員

議事に先立ち、小嶋委員長から新任挨拶があり、また各委員の自己紹介を行った。

### 【議 事】

#### 1. NBRPについて

資料1に基づき上田委員から、第3期を迎えるにあたり、プロジェクトの概要と目的、ねらい、推進体制について改めて説明があった。

#### 2. 昨年度の事業報告と本年度の計画

資料2に基づき、上田委員から「第3期中核的拠点整備プログラム申請におけるヒアリング資料(5年間の活動目標)」について以下の説明があった。

- 1) 世界最大規模のリソースの維持・提供を継続しつつ、選択と集中を実行
- 2) リソースのバックアップ体制整備による安定保存
- 3) 国際連携の下に有用系統収集の能力を確保
- 4) 野生種・近縁種研究の展開を見据えた系統および情報リソースの充実
- 5) DBの高度化と統合を推進
- 6) 研究コミュニティのニーズを反映した事業

また、分担機関としての将来計画 について以下の説明があった。

- ・ 系統の受け入れ
- ・ バックアップ体制の整備
- ・ NBRP に関連する活動

資料2に基づき、遺伝研、京都工繊大、愛媛大、杏林大、宮崎大の各課題管理者から平成24年度の事業計画について説明があった。

なお、上田委員から第3期からの事業体制について、宮崎大学がバックアップ機関として加わったことの経緯について補足説明があった。

#### 3. MTAについて

資料3に基づき、上田委員からリソース提供時に取り交わすMTA (MATERIAL TRANSFER AGREEMENT) について、今後ワーキンググループを立ち上げ、実施機関における統一した様式やシステム、ユーザーの利便性に考慮した方法等を検討していきたい、との提案があり、委員会としてこれを了承した。

また、土屋調整官から、第3期の公募要件にもMTAに関する条件を含めていること

もあり、リソースの収集、保存、提供に支障が出ないように検討をお願いしたい旨の発言があった。

#### 4. 遺伝子組換えショウジョウバエの拡散防止措置について

資料4に基づき、上田委員から組換えショウジョウバエの拡散防止措置について、全国大学等遺伝子研究支援施設連絡協議会より、資料作成依頼があった旨の説明があった。なお、今後ワーキンググループを立ち上げ、たたき台を作成したい旨の提案があり、委員会としてこれを了承した。

#### 5. その他

以下の意見交換があった。

- ・ 補助者（非常勤職員）の雇い止めに関する情報について  
→ 今後も引き続きコミュニティで情報共有
- ・ 基盤技術整備プログラムの申請状況について  
→ 遺伝研上田委員が課題管理者として申請中
- ・ 系統のリクエスト数の減少に対する対策について  
→ 時代のニーズに合わせた対応が必要。ただし NBRP では新規リソースは作成しない  
為、生物遺伝資源事業において作成し、NBRP 事業の方で収集を検討（遺伝研）  
→ 研究のサイクルも考慮し、その状況を見越した対応が必要

#### 6. 第 I/II 期の NBRP を振り返って（山本雅敏先生講演）

第 1~2 期の代表課題管理者であった山本先生より、スライド資料に基づき主に以下のお話があった。

- ・ NBRP とは「研究」ではなく「事業」である。  
運営委員として参加される方は、コミュニティをどう支えれば、研究が進むのかを考えていただきたい
- ・ 京都工芸繊維大学ショウジョウバエ遺伝資源センター (DGRC) の沿革及び米国、欧州ストックセンターとの関係
- ・ 今日のショウジョウバエコミュニティの支援、協力をいただいた海外研究者の紹介
- ・ 実績の達成、国際的な広報について、今後のバックアップ体制
- ・ JDD (日本ショウジョウバエデータベース) への協力依頼

最後に委員長より、山本先生の長年のご尽力及び功績に対する謝辞が述べられ閉会した。

以上